

小俣図書館 図書館行事 ご案内!

おはなし会 1階・おはなしのへや

3月10日(土) たんぽぽおはなし会、午後3時～

3月18日(日) ピッコの会・紙芝居、午前11時～

★「赤ちゃんおはなし会」 1階・おはなしのへや

3月8日(木) 午前11時～

◆上映会 2階・視聴覚室

3月17日(土) 午後2時～

「おまえうまそうだな」

アニメーション《約89分》

宮西達也先生の絵本  
〈ティラノサウルスシリーズ〉



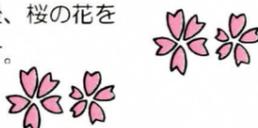
★図書館おはなし会&工作

〈1階・おはなしのへや〉

(日時) 3月24日(土) 午後3時～

(対象) 3歳～小学生(就学前の子どもは保護者同伴)

(内容) おはなしを読んだ後、桜の花を作る切り紙をします。



※おはなし会、上映会の事前申込みは不要です。

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 毎週火曜日、第2金曜日

年末年始、特別整理期間

貸出 1人10冊2週間以内(うち雑誌は5冊まで)

1団体50冊1ヶ月以内(うち雑誌は25冊まで)

小俣図書館カレンダー

3月

4月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

Q 図書館探検 Q  
～ メモリー-Q ～

(日時) 3月25日(日)

午後1時30分～

(内容) 館内を探検して、もっと小俣図書館のことを知ろう!

(対象) 小学生

(定員) 10人(先着順)

(場所) 小俣図書館

(申込み) 3月3日(土) 午前9時～

小俣図書館カウンターへ

(電話可)

小俣図書館には本が何冊あるのかな??



はるやすこ えいがい  
「春休み子ども映画会」

《日時》3月25日(日) 午後1時30分～

《場所》2階・視聴覚室

『ばけものづかい』

一人づつ、あらいおじいちゃんがひっこしてきたのは、ばけものが出る評判のおうちだった! ろくろ首、唐傘おばけ、一目小僧...と出てくる出てくるおばけたち。でも、おじいちゃんには怖がられるどころか逆にこき使われて。

おばけ絵本作家、せなけいこさんのお話。他、2作品を上映します。

「ばけものづかい」  
「うれしいのたまご」  
「とうふこそう」

『モチモチの木』

モチモチの木は、こやの前にたっているおおきな木に豆太がつけた名前だ。おくびょうな豆太は、ひるまは「みい、おとせえ」といっているが、夜はモチモチの木が怖くてじさまを起こさなきゃ、一人でおしっこにもいけない。そんな豆太とじさまとモチモチの木の心温まるお話。

〈アニメーション〉 〈上映時間 46分〉

「おはなし会」

《日時》毎週土曜日

午後2時30分～

《場所》1階・おはなしコーナー

3月3・10・17・24・31日

／おはなしブーさんによるおはなし会

\*\*\* 5週目(31日)は、ストーリーテリング。絵本を使わずに語って聞かせるおはなし会です。\*\*\*

「あかちゃんえほんのじかん」

《日時》3月22日(木) 午前11時～

《場所》2階・視聴覚室

《内容》あかちゃんむけの絵本の紹介や、手遊びなどをします♪

あかちゃんえほんのじかんは、毎月第4木曜日です★

\*\*\*第2日曜日の上映会は、都合によりお休みさせていただきます\*\*\*

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 毎週水曜日・第2金曜日(図書整理日)

年末年始・特別整理期間

貸出 1人10冊2週間以内(うち雑誌は5冊まで)

1団体50冊1ヶ月以内(うち雑誌は25冊まで)

伊勢図書館・休館日カレンダー

3月

4月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

こんにちは、いせABちゃんです!

23年度も最後の月です。伊勢図書館では、2月にAVブースがリニューアルしました。リニューアルに伴い、すべてのブースでビデオ・レーザー・DVDがご覧いただけます。新しく入ったDVDもたくさんありますので、ぜひ覗きにきて下さい!!

\* おはなし会、あかちゃんえほんのじかん、映画会

は、申込不要です。どうぞお気軽にご参加ください。



# 本のごあんない

〔一般書〕 「読書を楽しもう。」 本を読んで、笑ったり、感動したり、怒ったり、考えたり、涙したり…。

あなたも読書の時間を楽しみませんか♪♪

「どんな本を読もうかな？」と思うときのヒントとなる本のガイドブック。

今まで手に取ることのなかった、おもしろそうな本が見つかるかもしれません。

- ◎ 子どもに本を買ってあげる前に読む本 現代子どもの本事情 (赤木かん子/著 ポプラ社)
- ◎ 大人のための絵本の本 (エンターブレイン)
- ◎ ミステリが読みたい! 2012年版 (ミステリマガジン編集部/編 早川書房)
- ◎ 時代小説「熱烈」読書ガイド 必読おもしろ作品100 (加来耕三/編著 講談社)
- ◎ 2ページでわかる日本の古典傑作選 (小川義男/監修 世界文化社)



## 〔児童書〕 生きていくから食べるんだ!

食育とは、「たべもの」を通してすべての物事を考えること。

なぜ食べるのか、食べたものは自分の体の何になるのか。

食べるだけじゃもったいない! 「たべもの」のスパイスになるような本を紹介します。

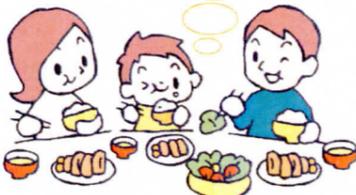
★ きみの家にも牛がいる (小森香折/作 中川洋典/絵 解放出版社)

★ まめをぞだてよう! (ラーシュ・クインティング/作 とやままり/訳 偕成社)

★ 家族で食育! 朝ごはん 1~5 (服部幸応、服部津貴子/監修 岩崎書店)

★ いのちをいただく (内田美智子/文 諸江和美/絵 佐藤剛史/監修 西日本新聞社)

★ 酪農家族 (立松和平/著 横松桃子/イラスト 河出書房新社)



## 〔ヤングアダルト〕 「お姫さまも 楽じゃない!？」

女の子なら誰でも一度は憧れるお姫さま。でも、お姫さまにもいろいろ悩みごとがあるんです。

今回、紹介するお姫さまは、国を持たずに自分の王国を探したり、初めての恋が叶わぬ恋だったり、おてんばがすぎて塔に閉じ込められたり……と、とても個性的なお姫さまばかり。

あなたが気になるのはどのお姫さま? お姫さま気分を、ぜひ本の中で感じてみてください。

【一般書】

● ガラシャ (宮木あや子/著 新潮社)

● おとぎ話を信じた王女さま (マルシア・グラッド/著 住友進/訳 竹書房)

【児童書】

● 王国のない王女のおはなし (アーシュラ・ジョーンズ/文 サラ・ギブ/絵 石井睦美/訳 BL出版)

● ねずみの騎士デスペローの物語 (ケイト・ディカミロ/作 ティモシー・バジル・エリング/絵 子安亜弥/訳 ポプラ社)

● わしといたずらキルディーン (マリー女王/著 長井那智子/訳 春風社)

★【ヤングアダルト】とは  
中・高生の読者に対して使われている言葉です。  
こちらでは、十代の若い世代におすすめの本を紹介しています。

★ 伊勢・小俣図書館のどちらかに所蔵がある本です。ご利用館にない場合は、予約ができます。

千三百年余の歳月を重ね、現代に継承されてきた式年遷宮。  
二十年に一度の至高の祭典—、遷宮へ至る道には、およそ三十にも及ぶ祭と行事が執り行われる。

七年前…。最初の祭である山口祭が新緑の御杣山で行われた時、遷宮の近づいてくる気配がはっきりと感じられた。

## 常若 —古くて新しいもの

～ 立柱祭と上棟祭 ～



春の息吹が深まりゆく三月、静寂の柱にこだまするのは遷宮へとつながる祈りの言霊…。

「コーン、コーン、コーン」  
青の素襖烏帽子に掛明恵の凛々しい姿の小工八名が打つ木槌の音が新御敷地に響き渡る。  
参列した約百名の白い斎服の神職。神域はあたかも古代絵巻の儀式の舞台と化する。

「立柱祭」は御正殿の建築の初めに際し、新しい御柱を立て固める祭儀である。  
最初に屋船大神に神饌が供えられ、「大宮柱の堅固で動くことなく守り給え…」と祝詞が奏上される。  
屋船大神は造営の守護神であり、建築にかかわる祭儀においては必ず平安が祈られる。丁寧な八度拝の後、この神事の中心である御柱の打ち固めが行なわれ、儀式が無事終了した事が大宮司に報告され立柱祭を終える。  
同じ日の午後から行われる御形祭は御正殿の東西の妻の東柱に御形～御鏡形を穿つ祭である。

「上棟祭」は立柱祭の約三週間後、御正殿に棟木を上げる祭儀である。八年間に及ぶ造営の課程で最も重要であり、忌鍛冶、小工ら造営関係者、神職、そして各界からの列席者を迎え約三百名が祭を見守る。  
儀式は正殿が古規通りの位置にあるかを測量する「丈量の儀」から行われる。  
社殿の中心から博士木(基本となる木)までの丈量に相違ないことが確認されたのち、棟木から引かれた二条の白布網が結わえられ「上棟の儀」が始まる。  
棟木から引かれた二条の白布網、東側の一条を曳くのは青い素襖烏帽子の小工、そして西側の一条を手にするのは白い斎服に身をつつんだ神職およそ八十名である。



「千歳棟!」 小工の頭が声高らかに唱える。

「おー!」 御殿の棟木の上に控える小工が木槌を振りおろす。

「万歳棟!」 「おー!」

「曳曳億棟!」 「おー!」

(外宮は「曳曳棟」)

宮大工たちの心と技を尽くした結晶が素晴らしい響きをもった寿言となり、  
千古変わらぬ神路の山々に奥深くこだまする。

この後、北西(乾の方位)に餅がまかれ屋船大神を祀る祭儀が行われ、上棟祭は終了する。

二十年に一度の式年遷宮は、一切を新しくする事によって神々も国も瑞々しく甦る。  
永遠に光り輝く命を伝え続ける日本の祈りは、時を経てなお未来へと伝えられていく。神宮はまさに常若の聖域である。  
日本の建築や文化に対する深い理解と尊敬の念を持ち、帝国ホテルの建築にも携わった建築家、Antonin Raymondは次のように語っている。

「伊勢の深い森のなかに世界で一番古くて新しいものがある。」

新しい神殿が姿を見せるのは平成二十五年、夏一。

遷宮祭直前、お白石奉獻のときである。

\*立柱祭・上棟祭は遷宮諸祭の中でも天皇陛下に日時の御治定を仰ぐ重要な祭儀である。

第62回式年遷宮

立柱祭	皇大神宮	平成24年3月4日	10:00
	豊受大神宮	3月6日	10:00
上棟祭	皇大神宮	3月26日	10:00
	豊受大神宮	3月28日	10:00

- 神宮遷宮記 第一巻～第七巻 (神宮司庁/編纂 一～四・表現社 五六・神宮式年造営庁 七・国書刊行会 L174/ジ/1～7)
- 伊勢神宮のこころ 式年遷宮の意味 (小堀邦夫/著 淡交社 L174/コ)